

PeopleSoft®

EnterpriseOne 8.9
ビジネス・インテリジェンス
ユーザー・ガイド PeopleBook

2003 年 9 月

PeopleSoft EnterpriseOne 8.9
ビジネス・インテリジェンス・ユーザー・ガイド PeopleBook
SKU AC89JBIU0309

Copyright 2003 PeopleSoft, Inc. All rights reserved.

本書に含まれるすべての内容は、PeopleSoft, Inc. (以下、「ピープルソフト」) が財産権を有する機密情報です。すべての内容は著作権法により保護されており、該当するピープルソフトとの機密保持契約の対象となります。本書のいかなる部分も、ピープルソフトの書面による事前の許可なく複製、コピー、転載することを禁じます。これには電子媒体、画像、複写物、その他あらゆる記録手段を含みます。

本書の内容は予告なく変更される場合があります。ピープルソフトは本書の内容の正確性について責任を負いません。本書で見つかった誤りは書面にてピープルソフトまでお知らせください。

本書に記載されているソフトウェアは著作権によって保護されており、このソフトウェアの使用許諾契約書に基づいてのみ使用が許諾されます。この使用許諾契約書には、開示情報を含むソフトウェアと本書の使用条件が記載されていますのでよくお読みください。

PeopleSoft、PeopleTools、PS/nVision、PeopleCode、PeopleBooks、PeopleTalk、Vantiveはピープルソフトの登録商標です。Pure Internet Architecture、Intelligent Context Manager、The Real-Time Enterpriseはピープルソフトの商標です。その他すべての会社名および製品名は、それぞれの所有者の商標である場合があります。ここに含まれている内容は予告なく変更されることがあります。

オープンソースの開示

この製品には、Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>) が開発したソフトウェアが含まれています。Copyright (c) 1999–2000 The Apache Software Foundation. All rights reserved. このソフトウェアは「現状のまま」提供されるものとし、特定の目的に対する商品性および適格性の黙示保証を含む、いかなる明示または黙示の保証も行いません。Apache Software Foundationおよびその供給業者は、損害の発生原因を問わず、責任の根拠が契約、厳格責任、不法行為（過失および故意を含む）のいずれであっても、また損害の可能性が事前に知らされていたとしても、このソフトウェアの使用によって生じたいかなる直接的損害、間接的損害、付随的損害、特別損害、懲罰的損害、結果的損害に関しても一切責任を負いません。これらの損害には、商品またはサービスの代用調達、使用機会の喪失、データまたは利益の損失、事業の中断が含まれますがこれらに限らないものとします。

ピープルソフトは、いかなるオープンソースまたはシェアウェアのソフトウェアおよび文書の使用または頒布に関しても一切責任を負わず、これらのソフトウェアや文書の使用によって生じたいかなる損害についても保証しません。

目次

システム概要	1
意思決定支援:基本概念	3
キー・パフォーマンス・インジケータ(KPI)	3
スコアカード	4
多次元分析レポートとグラフィック	4
意思決定支援ワークフロー	4
ビジネス・インテリジェンス・インターフェイスの理解	5
BI へのログオン	5
BI インターフェイスの理解	5
ユーザー権限の理解	6
KPI とスコアカードの設定	7
カテゴリと閾値セットの設定	7
カテゴリの処理	7
閾値セットの処理	8
KPI の処理	11
KPI に必要なオブジェクトの作成	11
スコアカードの処理	14
集計テーブルの処理	14
ゲージの処理	16
スコアカードのスコアカード	18
スコアカードの変更	22
スコアカードの削除	22
ビジネス・インテリジェンスと J.D. Edwards コラボラティブ・ポータル	24
ビジネス・インテリジェンス・ポートレットの作成	24

システム概要

デジタル経済でビジネスを行ううえで、迅速な戦略的意思決定は欠かせません。ビジネス・インテリジェンス(BI)を使って、ビジネスの機会を逃さないように正確でリアルタイムな意思決定を行うために必要な情報にアクセスして、競争力を強化および維持することができます。

BIは、複数のデータ・ソースからの情報の取込み、作成、体系化、アクセス、分散化の方法を提供します。BIでは、ドキュメント・リポジトリ、イントラネット、データ・ウェアハウス、サプライチェーン、およびインターネットからデータを収集することができます。そして収集したデータを従業員、パートナー、顧客に配布することによって、総合的な意思決定を行うことができます。

BIは構造化されたデータを処理します。このシステムにより、企業に影響を与えるキー・パフォーマンス・インジケータ(業績評価指標)のモニタリングが可能になるため、情報に基づく意思決定を迅速に行えるようになります。構造化データには、PeopleSoftのアプリケーションや、それ以外のトランザクション・システムのような外部ソースからのデータが含まれます。

BIにより、データ・ウェアハウスの構築、保守が可能となります。クライアントPCまたはウェブ・ベース端末および電子メールなどによって業績情報を検討、普及させるための意思決定支援機能を備えています。

企業は今日の市場競争に生き残るため、コスト削減と顧客サービス向上に常に気を配り、競争で優位に立つよう努力しています。これらの目標を達成するには、企業は自社の経営状態を分析し、効率と収益性を高めるためのチャンスを見極める必要があります。それだけでなく、現在効果的に業績を上げている事業も継続して行われるようにモニタリングする必要もあります。

企業の経営状態を分析し、モニタリングするには、企業のエンタープライズ・ソフトウェア・システムに格納されているデータにアクセスする必要があります。これらのソフトウェア・システムには、業務処理の実行方法が明らかになる情報が含まれています。しかし、これらのシステムは、通常、オンライン・トランザクション処理用に設計されています。データベースには、分析ではなくデータ入力を容易にするフォーマットで情報が格納されています。

業績を分析するには、データを異なるビューと次元で考察する必要があります。これは、通常、データ・ウェアハウスと呼ばれる特殊なデータベースを使うことによって可能になります。データ・ウェアハウス処理は、基本的に、トランザクション処理とは異なります。業績分析の第一目的は、戦略的意思決定をサポートすることです。通常、ユーザーがオンラインでデータ・ウェアハウスを更新することはありません。代わりに、データ・ウェアハウスはソース・システムから定期的に更新されます。

データ・ウェアハウスは意思決定支援機能の基盤となるもので、従業員の意思決定や効果的な業務遂行をサポートします。意思決定支援は、従業員1人1人のニーズに合わせてカスタマイズできます。

たとえば、意思決定支援機能を使うと、キー・パフォーマンス・インジケータ(業績評価指標)の状態を把握し、社内外両方における動向を時系列で見ることができます。BIを使うと、市場の需要や機会にすばやく対応することが可能になります。

データ・ウェアハウス

企業は、基幹業務システムなどで使用されているデータベースから、BIのデータ・ウェアハウスを構築し、更新します。トランザクション・データベースから切り離したデータ・ウェアハウスを使用する利点は次のとおりです。

- 意思決定支援のためのデータの簡素化、一貫性、有用性

- レポーティングのスピード

トランザクション・データを意思決定に適したデータに変換する難易度は、次のような要因によって異なります。

- 必要とする変換レベル
- 分析レベル

意思決定支援

意思決定支援機能により、多次元分析を提供する集約されたグラフィカルなフォーマットで、データ・ウェアハウスからの情報を検討し、行き渡らせることが可能となります。企業の業績検討に使用できる意思決定支援機能には、次のものがあります。

- キー・パフォーマンス・インジケータ(KPI)
- スコアカード
- 多次元分析レポートおよびグラフィック

これらの特徴と機能は、次のとおりです。

キー・パフォーマンス・インジケータ(KPI)

KPI は、一部の経営状態がどうなっているかを示す、1つの指標値を示すレポートまたは業績評価のことです。KPI では次のことが実行できます。

- 業績の実績対見込値比較集計の検討
- 厳重な注意が必要な業績を早急に特定

スコアカード

スコアカードは、選択された KPI を表示します。データに複数の閾値を定義することが可能なため、レポートとは異なり、1つの明確なレベルの比較値に焦点を当てることができます。スコアカードから、業績データをさらに分析するために、各 KPI に関連するレポートにアクセスすることも可能です。

多次元分析レポートとグラフィック

多次元分析レポートとグラフィックで、データを検討することができます。意思決定支援機能では、詳細な情報にドリル・ダウンしたり上位階層にドリル・アップできるほか、同じ情報をまったく異なる切り口で見ることが可能です。BI で提供されている機能により、キューブ・ベースのオンライン分析アプリケーションは必要ありません。

BI には、最新の業績に対する事前定義のメトリックとレポートがさまざまなフォーマットと時系列分析に含まれています。これらのオブジェクトは、場所や責任によって変わることの多い個人的ニーズに合わせて調整することもできます。必要に応じて、KPI、スコアカード、レポートを追加することが可能です。

KPI やレポートといった意思決定支援ツールを使うことにより、社内でカスタマイズした情報を配布し、従業員の職務や役割を最大限にサポートすることができます。

意思決定支援: 基本概念

企業の基幹業務システムに保管されているデータには、社内の業務プロセスがどのように実行されているかを明確に示す情報が含まれています。意思決定支援機能は、次のような質問に対する答えを提供します。

- 仕入先は購入品の納期を守っているか?
- 製造工程は作業オーダーの指示通りに進んでいるか?
- 納期までに顧客に製品を納入しているか?

企業によって重要となる疑問点に答えるために、ビジネス・インテリジェンス(BI)は次のような多彩なフォーマットで情報を提供します。

- キー・パフォーマンス・インジケータ(KPI)
- スコアカード
- 多次元分析レポートとグラフィック

このトピックでは、インプリメンテーション完了後に発生する標準的な意思決定支援のワークフローについても説明します。

キー・パフォーマンス・インジケータ(KPI)

KPI とは、経営状態をモニタリングするための業績評価のことです。KPI により、事業拡大や収益性向上の機会だけでなく、嚴重な注意が必要な業績をすばやく把握することができます。

レポートに計算を入力するメカニズムをメトリックと呼びます。それぞれの KPI に対して、基本メトリックが計算を実行します。メトリックには特定の詳細レベルは含まれません。KPI の作成時に、フィルタを使って詳細レベルを指定します。このアプローチにより、一度計算を指定すると、さまざまな目的のために異なるレベルで計算を使用することができます。

ビジネス・インテリジェンス(BI)には、あらかじめ定義されたメトリックが含まれており、KPI を作成するのに使用できます。MicroStrategy を使うと、自分だけのメトリックを作成して、これを使って KPI を定義することもできます。KPI はレポートにたとえると容易に理解できます。各 KPI は、1 つのセルにデータを持ったレポートです。

たとえば、次のようなレポートに、ある事業部の総売上高が載っているとします。金額 40,000 を含むセルは、中央事業部の総売上高に対する KPI です。

事業部	総売上高
中央	40,000

レポートとは異なり、KPI は閾値(上限値、下限値、見込値)に基づいて検討することができます。

KPI へアクセスできるかどうかは、ロールまたはユーザーに基づいて決まります。特定のユーザーに KPI へのアクセスを許可する場合、ユーザーの KPI に対する権限を[表示可]または[表示可、編集可]のどちらかに指定できます。権限が[表示可]の場合、ユーザーは KPI を選択して表示することが可能になります。[表示可、編集可]の場合は、ユーザーは KPI を表示するだけでなく変更することもできます。

スコアカード

スコアカードは、選択された KPI を 1 つのフォームに表示します。複数のスコアカードを持つことができます。スコアカードにアクセスできるかどうかは、ユーザー ID に基づいて決められます。特定のユーザーにスコアカードへのアクセスを許可する場合、スコアカードへの権限を[表示可]または[表示可、編集可]のどちらかに指定できます。権限が[表示可]の場合、ユーザーはスコアカードを選択して表示することができます。[表示可、編集可]の場合は、ユーザーはスコアカードを表示するだけでなく変更することもできます。

スコアカードの場合、結果はゲージを使って図形表示されます。BI は 6 種類のゲージ・タイプを使用します。4 種類のゲージ・タイプは、2 つの閾値が含まれた閾値セットを持つ KPI に対して使用可能で、下限値と上限値を簡単に区別できます。残りの 2 つのタイプは、1 つの閾値が含まれた閾値セットを持つ KPI に使用できます。

どのような場合でも、ゲージは KPI に対して定義されている閾値も表示します。「前年同期比」や「ベスト・イン・クラス」といった、多彩なユーザー定義の比較値を単独の KPI で設定することができます。スコアカードをモニタリングする際に、表示する比較値を選択することができます。KPI をクリックして、ゲージ表示と棒グラフ表示を切り替えることもできます。

多次元分析レポートとグラフィック

レポートでは、より詳しい情報にドリル・ダウンしたり上位レベルにドリル・アップできるほか、同じ情報をまったく異なる切り口で見ることができます。多彩なグリッド・フォーマットとグラフィック・フォーマットでレポートを表示できます。また、スプレッドシートにレポートをエクスポートすることも可能です。

BI には、多くの企業が関心を持つエリアで業績評価が行える事前定義レポートが含まれています。必要に応じて、これらのレポートに関心がある内容に合うように修正したり、その他のレポートを作成することができます。

意思決定支援ワークフロー

BI のインプリメンテーション(導入作業)を行っている間に、ソリューションとともに提供されるメトリックおよびレポートについて理解しておく必要があります。それ以外に必要な設定項目などがある場合、インプリメンテーション・チームに伝えてください。インプリメンテーション完了後に、メトリック、レポート、閾値タグ、カテゴリ・タグを追加することも可能です。

ソリューションが導入された後、必要に応じて、BI を使って閾値セットとカテゴリを設定します。設定後、KPI を作成し、ユーザー権限を割り当てます。KPI の作成後、作成するスコアカードにユーザー権限をまとめます。また、ユーザー権限をスコアカードに割り当てる必要もあります。

設定後、ユーザーはスコアカードをカスタマイズし、モニタリングします。必要に応じて、ユーザーはレポートを実行することができます。時間の経過に伴い、必要に応じてメトリック、レポート、閾値セット、カテゴリ、KPI、スコアカードの追加、変更、削除を行い、既存データの保守管理を行う必要があります。

ビジネス・インテリジェンス・インターフェイスの理解

ビジネス・インテリジェンス (BI) は、スコアカードの表示、管理が可能なウェブベースのインターフェイスを提供します。BI を使用すると、KPI を管理し、レポートにアクセスすることも可能です。

BI へのログイン

BI を処理する前に、ログインする必要があります。次の手順で BI にログインします。

▶ BI にログインするには

1. Web ブラウザを使って、社内の BI システムのサイトにアクセスします。
2. サイトを開くと、ログイン・ページが表示されます。次のフィールドに値を入力し、[ログイン] をクリックします。
 - ユーザーID
BI 用の ID を入力します。
 - パスワード
 - プロジェクト
処理するプロジェクトを選択します。選択したプロジェクトにより、表示されるレポートが決まります。

BI インターフェイスの理解

ログインした後、[KPI とスコアカードの表示] ページが表示されます。BI のインターフェイスには、次の構成要素があります。

スコアカードまたはナビゲーション・ツリー

オプションのツリーは、BI インターフェイスの左側にあります。
[KPI&スコアカードの表示] ページで、参照権限があるスコアカードと KPI がツリーに表示されます。[KPI とスコアカードの管理] ページで、スコアカードと KPI を管理するオプションがツリーに表示されます。

コンテンツ・エリア

インターフェイスの残りの部分は、スコアカード、ディレクタおよびその他の情報が表示できるように確保してあります。上部のタブを使って、BI インターフェイス内を移動します。

BI インターフェイスに最初にログインすると、[KPI&スコアカードの表示] ページに BI インターフェイスに関する情報が表示される場合があります。ここにデフォルトのスコアカードを表示することもできます。

[KPI とスコアカードの管理] ページのナビゲーション・ツリー・オプションの多くは、処理手順を示すディレクタを起動します。たとえば、[スコアカードの管理] の下にある [新規作成] をクリックすると、名前の入力、表示する KPI の選択、アクセス権限の設定などを行うようにプロンプトが表示されます。

ユーザー権限の理解

特定の KPI とスコアカードへのアクセスを、ユーザー別に管理することができます。権限には、[表示可] と [表示可、編集可] の 2 種類があります。オブジェクトに対して [表示可] の権限がある場合、表示することはできますが、変更することはできません。オブジェクトに [表示可、編集可] の権限を持つ場合、表示して変更することができます。権限はユーザーごとに設定できます。

ユーザーにスコアカードへのアクセス権限を与えても、そのスコアカード上の KPI の 1 つへのアクセスを認めないようにした場合、そのユーザーはスコアカードを参照することはできますが、その KPI は参照できません。

KPI とスコアカードの設定

経営陣からの質問に答える手助けをするために、ビジネス・インテリジェンス (BI) ではキー・パフォーマンス・インジケータ (KPI) やスコアカードを含む、さまざまな意思決定支援ツールを提供しています。

カテゴリと閾値セットの設定

ビジネス・インテリジェンス (BI) が意思決定支援機能で使用するカテゴリと閾値セットは、次のとおりです。

- | | |
|--------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| カテゴリ | カテゴリとは、特定のオブジェクトの表示と検索を容易にするために、KPI、閾値セット、スコアカードなどのオブジェクトを分類した見出しのことです。データ・ウェアハウスのデータ・マートと異なる名前をカテゴリに付けることはできますが、同じ名前を使った方が便利です。 |
| 閾値セット | 閾値は、業績が見込値または許容限界値を上回っているか、下回っているかを判断する基準を提供します。閾値セットは、通常、ユーザーが定義した名前を持つ次のカテゴリのいずれかに属します。 <ul style="list-style-type: none">• 目標値などの内部目標• 予測などの内部予測• 業界規格や競合他社データなどの外部 (ベスト・イン・クラス) 値 |

カテゴリの処理

KPI、スコアカード、閾値セットを作成すると、カテゴリ・リストができます。ユーザーは新しい KPI、スコアカード、閾値セットに関連付けるカテゴリを 1 つ選択します。次のプロセスを使って、カテゴリをリストに追加したり、リストから削除します。

注:

KPI、スコアカード、閾値セットがカテゴリに関連付けられている場合、リストからそのカテゴリを削除することはできません。カテゴリを削除する前に、現在そのカテゴリを使用しているすべてのオブジェクトに別のカテゴリを割り当てる必要があります。

▶ カテゴリを追加するには

1. [KPI とスコアカードの管理] タブをクリックし、フォーム左側で [カテゴリの管理] メニュー・オプションを展開します。
2. [新規作成] をクリックします。
3. 〈カテゴリの詳細〉で、新しいカテゴリの名前を入力して [完了] をクリックします。

▶ カテゴリを削除するには

1. [KPI とスコアカードの管理] タブをクリックし、フォーム左側で[カテゴリの管理] メニュー・オプションを展開します。
2. [削除] をクリックします。
3. <カテゴリの削除> で、削除するカテゴリを選択して[完了] をクリックします。

▶ カテゴリの名前を変更するには

1. [KPI とスコアカードの管理] タブをクリックし、フォーム左側で[カテゴリの管理] メニュー・オプションを展開します。
2. [編集] をクリックします。
3. <カテゴリの編集> で、名前を変更するカテゴリを選択して[次へ] をクリックします。
4. <カテゴリの詳細> で、別の名前を入力して[完了] をクリックします。

閾値セットの処理

KPI を作成する際、閾値セットを KPI に割り当てることができます。閾値セットは、KPI ゲージを 2 分割または 3 分割します。ゲージを 2 分割した場合、閾値セットには 1 つの閾値ができます。ゲージを 3 分割した場合、閾値セットには左右 2 つの閾値ができます。

比較値として使用するために、その他の閾値セットを KPI に適用することができます。基本の閾値セットで特定の値と範囲のどちらを指定するかによって、比較値は KPI ゲージ上で点(ドット)または線(バー)として表示されます。スコアカードの作成時にも、閾値セットは比較値として割り当てられます。

指定した閾値タイプに基づいて、閾値が自動的に設定されます。閾値セットに 2 つの閾値がある場合、左右の閾値として同じ閾値タイプを使用する必要があります。

- リテラル値

この閾値タイプにより、閾値に対して固定閾値を指定することができます。閾値セットに 2 つの閾値がある場合、それぞれに異なる値を指定することができます。

- キー・パフォーマンス・インジケータ

この閾値タイプにより、特定の KPI に使用する閾値を決定することができます。閾値セットに 2 つの閾値がある場合、それぞれに異なる KPI を指定することができます。

- 計算

この閾値タイプでは、指定した演算を特定の KPI 値に対して実行することによって閾値を計算できます。KPI 値に任意の数字を加算、減算、乗算、除算して、閾値を算出することができます。閾値セットに 2 つの閾値がある場合、それぞれに異なる計算と KPI を指定することができます。

- 差異

右と左の閾値が必要な閾値タイプを使って、KPI 値からの指定値を基に、閾値を計算することができます。たとえば、10%の差異を指定する場合、左の閾値に KPI の現行値から 10% 下回る値、そして右の閾値に KPI の現行値から 10% 上回る値を設定します。パーセンテージまたは値で差異を定義することができます。

閾値セットのリストを1つだけ管理することにより、複数の KPI とスコアカードで同じタイプを繰り返し使用することができます。次のプロセスを使って、閾値セットの追加と削除を行います。

注:

KPI またはスコアカードが閾値セットに関連付けられている場合、その閾値セットを削除することはできません。閾値セットを削除する前に、その閾値セットがどの KPI とスコアカードでも使用されていないことを確認してください。

閾値セットを作成した後、[KPI とスコアカードの管理] タブの [閾値セットの管理] の下にある [編集] 機能を使って、閾値セットの次のデータを修正します。

- 名前
- カテゴリ
- 説明
- 閾値 (複数の場合もあり)

► **固定閾値を持つ閾値を作成するには**

1. [KPI およびスコアカードの管理] タブをクリックし、フォーム左側で [閾値セットの管理] メニュー・オプションを展開します。
2. [新規作成] をクリックします。
3. 〈閾値セットの作成〉で、次のフィールドに値を入力します。
 - 名前
 - カテゴリ閾値セットをカテゴリ分けすることにより、簡単に検索することができます。
- 説明
4. 閾値セットに1つまたは2つ、どちらの閾値を含めるかを選択します。
5. [リテラル] を選択して [次へ] をクリックします。
6. 〈閾値セットの作成〉で、閾値の数値を入力して [完了] をクリックします。
2つの閾値を設定している場合、それぞれに異なる値を入力する必要があります。

► **KPI を基に閾値セットを作成するには**

1. [KPI およびスコアカードの管理] タブをクリックし、フォーム左側で [閾値セットの管理] メニュー・オプションを展開します。
2. [新規作成] をクリックします。
3. 〈閾値セットの作成〉で、次のフィールドに値を入力します。
 - 名前
 - カテゴリ閾値セットをカテゴリ分けすることにより、簡単に検索することができます。

- 説明
4. 閾値セットに 1 つまたは 2 つ、どちらの閾値を含めるかを選択します
 5. [キー・パフォーマンス・インジケータ]を選択して[次へ]をクリックします。
 6. 〈閾値の作成〉で、[選択可能な項目]リストから KPI を選択し、右矢印をクリックして選択した KPI を[選択項目]リストに移動します。
2 つの閾値がある場合は、左と右の閾値、それぞれに対して KPI を選択します。
 7. [完了]をクリックします。

▶ KPI から計算される閾値セットを作成するには

1. [KPI およびスコアカードの管理]タブをクリックし、フォーム左側で[閾値セットの管理]メニュー・オプションを展開します。
2. [新規作成]をクリックします。
3. 〈閾値セットの作成〉で、次のフィールドに値を入力します。
 - 名前
 - カテゴリ
 閾値セットをカテゴリ分けすることにより、簡単に検索することができます。
- 説明
4. 閾値セットに 1 つまたは 2 つ、どちらの閾値を含めるかを選択します
5. [計算]を選択して[次へ]をクリックします。
6. 〈閾値の作成〉で、[選択可能な項目]リストから KPI を選択し、右矢印をクリックして、選択した KPI を[選択項目]リストに移動します。
7. [説明]フィールドの下から使用する演算子(+、-、*、/)を選択し、演算子の下のフィールドに数値を入力します。
たとえば、*を選択して.5 を入力すると、現行の KPI 値に.5 または 50%が乗算されて、閾値が設定されます。
8. 2 つの閾値がある場合、2 つ目の閾値に対してステップ 6 と 7 を繰り返します。
9. [完了]をクリックします。

▶ KPI 差異を基に閾値セットを作成するには

1. [KPI およびスコアカードの管理]タブをクリックし、フォーム左で[閾値セットの管理]メニュー・オプションを展開します。
2. [新規作成]をクリックします。
3. 〈閾値セットの作成〉で、次のフィールドに値を入力します。
 - 名前
 - カテゴリ
 閾値セットをカテゴリ分けすることにより、簡単に検索することができます。

- 説明
4. [左]と[右]をクリックします。
 5. [差異]を選択して[次へ]をクリックします。
 6. 〈閾値の作成〉で、[選択可能な項目]リストから KPI を選択し、右矢印をクリックして、選択した KPI を[選択項目]リストに移動します。
 7. 差異の計算方法に基づいて[+/-]フィールドに数値を入力し、プルダウンから%または値を選択します。

たとえば、25 と入力して値を選択すると、左の閾値には現行の KPI 値より 25 下回る値、右の閾値には現行の KPI 値を 25 上回る値が設定されます。

8. [次へ]をクリックします。

KPI の処理

キー・パフォーマンス・インジケータ(KPI)は、経営状態を示す業績評価のことです。ユーザーによって、異なる情報を参照して業績をモニタリングする必要があります。たとえば、中央事業部の管理職にとっては、一番の関心事は中央事業部の業績を示すデータです。西部事業部の管理職は、別のデータに主に関心があります。

KPI は、スコアカードを構成する部品の 1 つです。各 KPI は、たった 1 つのセルで構成されたレポートです。たとえば、次のレポートには中央事業部の総売上高を示す 1 つのセルが含まれています。

事業部	総売上高
中央	40,000

一般的に、レポートには複数のカラム、ロー、セルが含まれます。業績評価に必要なすべての情報を含むレポートを作成しようとすると、多くのカラムと計算式を持つ複雑なレポートになってしまう場合があります。ビジネス・インテリジェンス(BI)では、レポート上の単独のセルを KPI として区別することができます。その後、この KPI と別の KPI を使って、特定のユーザーまたはグループ向けにカスタマイズされた業績情報を提供することができます。

[KPI とスコアカードの管理]タブの[KPI の管理]メニューから、KPI を作成、コピー、編集、削除することができます。スコアカードに含まれている KPI を削除することはできません。

KPI に必要なオブジェクトの作成

KPI を作成する前に、MicroStrategy デスクトップに基本オブジェクトを作成するか、既に存在していることを確認する必要があります。

- データを適正化して集計する属性
- KPI の計算を定義するメトリック
- 実際の KPI 値に対するメトリックの範囲を限定するフィルタ(複数可)

たとえば、地域の総売上高を会計期間別に表示する KPI を作成するには、次のようなオブジェクトが必要です。

- ビジネスユニット、地域、期間、日付の属性

- 総売上高を計算するメトリック
- 地域と期間のフィルタ
- KPI レポートを保管するフォルダ

BI では、あらかじめ定義された属性、メトリック、フィルタ、その他のオブジェクトが提供されています。作成する KPI に必要なオブジェクトは、MicroStrategy デスクトップに既に存在している可能性があります。デスクトップの次の場所を検索して、必要なオブジェクトがあるかどうか確認してください。

属性	J.D. Edwards BI Solution¥J.D. Edwards BI Solution¥Schema Objects¥Attributes
プロンプト	J.D. Edwards BI Solution¥J.D. Edwards BI Solution¥Public Objects¥Prompts
フィルタ	J.D. Edwards BI Solution¥J.D. Edwards BI Solution¥Public Objects¥Filters¥[データ・マートごとのフォルダ]
メトリック	J.D. Edwards BI Solution¥J.D. Edwards BI Solution¥Public Objects¥Filters¥[データ・マートごとのフォルダ]

注:

レポートにフィルタを適用する場合、基本のメトリックがレポート・フィルタを無視するように設定されていないこと(メトリック作成時のデフォルト設定)を確認してください。メトリックの設定を確認するには、メトリックを開いて条件をハイライトし、[詳細]をクリックします。

参照

- BI ソリューションのプロジェクトへの属性の追加については、『Business Intelligence Implementation(ビジネス・インテリジェンス・インプリメンテーション)』ガイドの「Creating New Attributes(新しい属性の作成)」
- 作成する属性への新しいプロンプトの追加については、『Business Intelligence Implementation(ビジネス・インテリジェンス・インプリメンテーション)』ガイドの「Adding Prompts(プロンプトの追加)」
- 作成する属性への新しいフィルタの追加については、『Business Intelligence Implementation(ビジネス・インテリジェンス・インプリメンテーション)』ガイドの「Adding Basic Filters for KPIs(KPI 用基本フィルタの追加)」
- 閾値セットについては、『Business Intelligence Implementation(ビジネス・インテリジェンス・インプリメンテーション)』ガイドの「Working with Threshold Sets(閾値セットの処理)」

▶ 新しい KPI を作成するには

1. [KPI とスコアカードの管理] タブをクリックし、フォーム左側で [KPI の管理] メニュー・オプションを展開します。
2. [新規作成] をクリックします。
3. <KPI の作成> で、使用するメトリックを検索して選択し、[次へ] をクリックします。

注:

メトリックの中には、一部またはすべての属性に対してフィルタ基準を無視するような設定がされているものがあります。これらのメトリックは、KPI に対して一貫して同じ結果を返すようフィルタできないため、KPI 作成時にエラーが生じる場合があります。したがって、これらのメトリックを使って KPI を作成しないでください。これらの詳細設定メトリックは、わかりやすいように Not Valid for KPIs (KPI には無効) という別のフォルダに保管されています。

4. 使用するフィルタ (複数可) を検索して選択し、[次へ] をクリックします。
「顧客の選択」や「都市の選択」のようなその他の情報が必要とするフィルタを選択した場合、ステップ 5 で説明されているように、それらの情報を求めるプロンプトが表示されます。このフィルタ・タイプを選択しない場合は、ステップ 6 に進んでください。

5. それぞれのプロンプト・タイプ・フィルタに値を選択し、[次へ] を選択します。

6. 次のフィールドに値を入力し、[次へ] をクリックします。

- 名前
- 説明
- カテゴリ

KPI をカテゴリ分けすることにより、後で簡単に検索することができます。

7. 閾値に固定値を設定するか、または適用する閾値セットを選択します。
 - [固定閾値] を選択した場合、[下限閾値] フィールドに数値を入力します。2 つの閾値が必要な場合、[上限閾値] フィールドにも異なる数値を入力します。値を 1 つだけ作成する場合、上限下限両方の閾値に対して、同じ数値を入力する必要があります。
 - [閾値セット] を選択した場合、KPI に適用する閾値セットを選択します。
8. 必要に応じて、KPI で比較値として使用する閾値セットを選択します (複数可)。

基本となる値が単独の数字か範囲かによって、比較値はゲージの縁に点あるいは線で表示されます。

比較値が表示される順序は、KPI の表示に影響を与えます。一番上にある比較値がゲージ上に表示されます。バー・ゲージには最初の 2 つがデフォルトで表示されます。テーブル・ビューでは、すべての比較値が表示されます。

9. KPI の閾値範囲に適用する評価パターンを選択し、[次へ] をクリックします。

たとえば、KPI を 3 分割する閾値の場合、下限閾値を下回る値は不可、下限閾値と上限閾値の間にある値は可、上限閾値を上回る値は良と示したいとします。この場合、「注意-閾値内-順調」というパターンを選択します。

10. 〈KPI リンクの管理〉で、次の KPI 関連項目のいずれかを指定して[次へ]をクリックします。

関連項目の選択はすべて任意です。レポートまたは URL への関連付けを指定しない場合、それぞれに該当するアイコンは KPI のタイトル・バーに表示されません。

レポート・リンク	KPI タイトル・バーでレポート・アイコンをクリックすると、選択したレポートが表示されます。
関連レポートへのリンク	複数の関連レポートを追加することができます。レポートおよび関連レポートは、ゲージからドロップ・ダウンで表示されます。
URL リンクの指定	KPI タイトル・バーの地球儀アイコンをクリックすると、入力した URL が表示されます。
電子メール・リンクの指定	電子メール KPI アイコンをクリックすると、入力したアドレスがアドレス・フィールドにデフォルトとして表示されます。

11. 〈ユーザー権限〉で、KPI へのアクセス権限を与えるユーザーを選択して[次へ]をクリックします。

12. 〈ユーザー権限の許可〉で、各ユーザーに与える権限タイプを指定して[完了]をクリックします。

スコアカードの処理

ビジネス・インテリジェンス(BI)を使うと、会社の業績の分析が可能となるメトリックを表示することができます。スコアカードにより、キー・パフォーマンス・インジケータ(KPI)あるいは複数のメトリックを示すその他のスコアカードを統合することができます。

スコアカードでは、実績値と比較値を比較し、閾値に対する差異を分析して業績を判断することができます。また、KPI またはスコアカードそれぞれの詳細データにアクセスすることにより、複数の KPI またはスコアカードを同時に検討することもできます。

スコアカードには、1 つまたは複数の KPI またはスコアカードが表示されます。スコアカードの上部にテーブルのオブジェクトが集計され、下部に各 KPI ゲージまたはスコアカードが個別に表示されます。スコアカードのオブジェクトは、電子メール送信、印刷、ドリル・オン、調整することができます。ネスト・スコアカード(入れ子になっているスコアカード)を持つスコアカードは、「スコアカードのスコアカード」またはサブ・スコアカードと呼ばれます。

スコアカードは、2 つの主要なコンポーネントで構成されています。1 つは集計テーブルで、もう1つは、KPI ゲージまたはネスト・スコアカードのどちらか 1 つまたは両方です。コンポーネントを非表示にしたり表示することができます。集計テーブル、個々の KPI ゲージ、あるいはネスト・スコアカードを電子メールで送信したり、印刷することができます。KPI ゲージとスコアカードには、Web リンクやドリルなどの機能が含まれている場合もあります。

集計テーブルの処理

集計テーブルは、スコアカードに含まれる KPI あるいはネスト・スコアカードそれぞれに関する情報を表示します。各オブジェクトはそれぞれ 1 つの行に示されます。オブジェクトは、ゲージが表示される順番で表示されます。各行は、KPI ゲージまたはネスト・スコアカードに基づいて記号で示されます。次の表は、ゲージ値および対応する状況を表す記号を示します。

ゲージのカラー・ゾーン	意味	テーブル行の先頭に付く記号
緑	順調	丸 (○)
黄	閾値内	三角 (△)
赤	注意	四角 (□)
なし	無効なデータ	疑問符 (?)

注:

緑と赤のゾーンのみのゲージ・タイプは、黄色のゾーンがないため「閾値内」の値を返しません。

評価タイプの記号をクリックすると、ツールバーが表示され、KPI またはネステッド・スコアカードに対して次の操作を実行することができます。

- ドリル
 - レポート(レポートまたは関連レポートへのリンクを設定した場合のみ、このオプションが表示されます)
 - 電子メール
 - 印刷
 - カスタマイズ
-

注:

これらの機能は、各オブジェクトのタイトル・バーに対して表示されるのと同じ機能で、『ビジネス・インテリジェンス・ユーザーガイド』の「ゲージの処理」で説明されています。

さらに、[関連ゲージヘスクロール]をクリックして、該当するゲージを含む行にジャンプします。ツールバーを非表示にするには、評価タイプの記号をもう一度クリックします。

集計テーブルには、評価タイプのほかに次のカラムが含まれています。

キー・パフォーマンス・インジケータ	KPI の名前と説明またはネステッド・スコアカードの名前(スコアカードに説明はありません)。名前、ダッシュ、説明の順で表示されます。
値	KPI の現行値またはネステッド・スコアカードの現行値
比較値	比較タイプ、比較値または比較範囲の順で表示されます。オブジェクトに目標値がある場合、比較値の下に表示されます。
差異	現行値と比較値の差異。オブジェクトに目標値が設定されている場合、現行値と目標値の差異は、現行値と比較値の差異の下に表示されます。

集計テーブルのタイトル・バー上のアイコンを使って、次の機能を実行します。

スコアカードの送信	[電子メール…]をクリックします。スコアカードを表示する新しいウィンドウが開きます。スコアカードの送信先の電子メール・アドレスを入力します。[コメント]フィールドにその他の情報を入力できます。[送信]をクリックします。
スコアカードの印刷	[印刷…]をクリックします。新しいブラウザ・ウィンドウが開き、スコアカードが表示されます。ウェブページを印刷するのと同じようにスコアカードを印刷します。
KPI 集計テーブルの非表示/表示	[テーブルの表示]をクリックして、非表示/表示を切り替えます。
KPI ゲージの非表示/表示	[ゲージの表示]をクリックして、非表示/表示を切り替えます
グラフィックの非表示/表示	[グラフィックの表示]をクリックして、非表示/表示を切り替えます。グラフィック・イメージがオブジェクトに関連付けられている場合のみ、このオプションが表示されます。

ゲージの処理

ゲージは、KPI またはネステッド・スコアカードの現行値、および実績値の許容範囲の値(閾値)をグラフィックで表示します。ゲージでは、目標の値または範囲、および比較タイプとその値を表示することも可能です。ゲージをクリックして、最高 2 つまで比較値を表示する棒グラフ・ビューに切り替えます。ゲージ・ビューに戻るには、棒グラフをクリックします。

集計テーブルのタイトル・バーで[ゲージの表示]をクリックすると、ゲージを非表示にしたり表示することができます。

KPI またはネステッド・スコアカードの名前は、ゲージのタイトル・バーに表示されます。KPI の名前の上にカーソルを合わせると、名前が最初に表示され、その後 2 つのダッシュ、説明と続きます。たとえば、KPI の名前と説明は「平均売上高 - 南西地区」となります。名前は、評価タイプの横に表示されます。つまり、現行値がゲージの赤色ゾーンにある場合、正方形の後ろに名前が表示されます。

次の表は、ゲージの値および対応する記号と色を示します。

ゲージのカラー・ゾーン	意味	オブジェクト名の先頭に付く記号
緑	順調	丸 (○)
黄	閾値内	三角 (△)
赤	注意	四角 (□)
なし	無効なデータ	疑問符 (?)

注:

緑と赤のゾーンのみのゲージ・タイプは、黄色のゾーンがないため「閾値内」の値を返しません。

タイトル・バーの下にゲージがあります。ゲージの右側で、KPI またはネステッド・スコアカードの現行値が[値]フィールドに表示されます。ゲージと棒グラフの表示は切り替え可能です。棒グラフで表示するにはゲージをクリックし、ゲージで表示するには棒グラフをクリックします。

KPI またはネステッド・スコアカードに比較タイプと比較値がデフォルト設定されている場合、[比較値]フィールドに表示されます。値または範囲は、ゲージの上に黒色の点または線として表示されます。ドロップ・ダウン・メニューから選択することによって、異なる比較値の表示を選択することができます。

スコアカードをカスタマイズすることにより、KPI のビューの閾値を変更することができます。その場合、オブジェクトのビューのみが変更されます。

ゲージのタイトル・バー上のアイコンを使って、次の機能を実行します。いくつかのアイコンは、ある特定のオブジェクトには使用できない場合があります。

ドリル	[ドリル]アイコンをクリックして、オブジェクトをドリル・オンします。新しいブラウザ・ウィンドウでドリル・レポートが表示されます。
電子メール	[電子メール]をクリックします。集計テーブルからのオブジェクトとその行を表示する新しいウィンドウが開きます。オブジェクトの送信先の電子メール・アドレスを入力します。[コメント]フィールドにその他の情報を入力することができます。[送信]をクリックします。デフォルトの電子メール・アドレスが表示されるオブジェクトもあります。
印刷	[印刷]をクリックします。KPI またはネステッド・スコアカードと、集計テーブルの行を表示する、新しいブラウザ・ウィンドウが開きます。ウェブページを印刷するのと同じようにオブジェクトを印刷します。
関連ウェブ・ページを開く	[地球儀]アイコンをクリックして、KPI に関連付けられているウェブ・サイトにジャンプします。オブジェクトすべてがウェブ・サイトに関連付けられているわけではありません。
レポートを開く	[ページ]アイコンをクリックして、新しいブラウザ・ウィンドウにオブジェクトと関連付けられている関連レポートを表示します。
閾値の変更	[カスタマイズ]アイコンをクリックして、KPI のビューに対する閾値を変更します。スコアカードをカスタマイズする方法については、「スコアカードの閾値の変更」を参照してください。

参照

- スコアカードのカスタマイズ方法については、「スコアカードの閾値を変更するには」

▶ スコアカードを修正するには

次の手順で、[KPI とスコアカードのビュー]タブにある[マイ・スコアカード]の下に表示されるスコアカード・リストを修正します。

1. [KPI とスコアカードの管理]タブをクリックし、フォーム左側で[スコアカードの管理]メニュー・オプションを展開します。
2. [表示と順序]をクリックします。
3. <表示と順序>で、次の手順のうちいずれかを実行します。
 - [マイ・スコアカード]にスコアカードを含めるには、[選択可能な項目]リストからスコアカードを選択し(複数可)、右矢印をクリックします。

- [マイ・スコアカード]からスコアカードを削除するには、[選択項目]リストからスコアカードを選択し(複数可)、左矢印をクリックします。
 - [マイ・スコアカード]のスコアカードの順序を変更するには、[選択可能な項目]リストからスコアカードを選択し(複数可)、上矢印または下矢印をクリックします。
4. [KPI&スコアカードの表示]タブをクリックしたときに[選択項目]リストに常に最初のスコアカードをデフォルトで表示するには、ページの下にあるチェックボックスをクリックします。
- チェックボックスを選択しないと、BI システムに関する情報がデフォルトで表示されます。
5. [完了]をクリックします。

スコアカードのスコアカード

スコアカードをネストする場合、2 つ以上のスコアカードの値を結合し、1 つのスコアカードとしてその結合値を表示します。スコアカードを構成するパフォーマンス・インジケータ上で最も多く表示されるゲージ・タイプの値が表示されます。ただし、従属する(子の)パフォーマンス・インジケータすべてが同じゲージ・タイプを使用する場合のみ、スコアカードのスコアカード(サブ・スコアカード)を作成することをお勧めします。閾値および合計値は、スコアカードの集計値に基づきます。スコアカードすべてが等しく合計値に影響するよう設定したり、特定の値がその他の値よりも親スコアカードの値に影響するように加重値を設定することができます。

たとえば、次のような 2 つのスコアカードを例として使用します。

スコアカード	現行値	最低値	下限閾値	上限閾値	最高値
A	30	0	20	40	60
B	135	100	140	180	220

これら 2 つのスコアカードを別のスコアカードにネストして加重値を等しくすると、親スコアカードの値は次のようになります。

スコアカード	現行値	最低値	下限閾値	上限閾値	最高値
親	165	100	160	220	280

ただし、A を 75%、B を 25%の加重値でこれらの 2 つのスコアカードをネストすると、親スコアカードの値は次のようになります。

スコアカード	現行値	最低値	下限閾値	上限閾値	最高値
親	56.25	25	50	75	100

場合によっては、親スコアカードの閾値を子スコアカードの集計値にしない場合があります。その代わりに、子のスコアカードにそれぞれ異なるスケールを使用すると、それらの値を追加しても実際の状況が正しく示されない可能性があります。このため、(集計する代わりに)スコアカードを標準化してください。

スコアカードを標準化する場合、閾値は 33.33%と 66.66%に変換され、次に、相対値となるように実際の子の値に対して比例計算が行われます。その後、比例計算された値の平均が表示されます。スコアカードの値を集計する際、値に対して均一にまたは別々に加重値を与えるかどうかを選択できます。

この例では、A の相対値は 50、B の相対値は 29.17 となります。2 つの値の平均値は 39.59 になるため、親のスコアカードは約 40%と見ることができます。前と同じ加重値 (75%と 25%) を設定した場合、ゲージは約 44%と見ることができます。

▶ KPI のスコアカードを作成するには

1. [KPI とスコアカードの管理] タブをクリックし、フォーム左側で [スコアカードの管理] メニュー・オプションを展開します。
2. [新規作成] をクリックします。
3. <スコアカード・タイプの選択> で、[キー・パフォーマンス・インジケータのスコアカード] をクリックします。
4. <新しいスコアカードの作成> で、次のフィールドに値を入力します。
 - 名前
 - カテゴリその他のスコアカードのグループをスコアカードに含める場合、カテゴリを選択します。含めない場合は [カテゴリなし] をクリックします。
5. 含める KPI を検索して選択します。
6. [次へ] をクリックします。
7. <パフォーマンス・インジケータの詳細> の [加重値の設定] セクションで、各スコアカードの横に数値を入力して、他のスコアカードに対する相対加重値を指定します。値の合計は 100 になるようにしてください。すべてのスコアカードに均一の加重値を割り当てるには、このフィールドをブランクにします。
8. [計算方法の選択] セクションで、次の中からゲージ値の計算に使う方法を選択します。
 - 集計
結果を示すゲージは、構成値合計の平均を表示します。
 - 標準化
結果を示すゲージは、相対化された構成値合計の平均を表示します。
9. 必要に応じて、比較値として使用する閾値セットを選択します (複数可)。
基本となる値が単独の数字か範囲かによって、比較値はゲージの縁に沿って点または線で表示されます。

最初の比較値はゲージに表示され、1 番目と 2 番目の値は棒グラフにデフォルトとして表示されます。すべての比較値はテーブル・ビューに表示されます。
10. [次へ] をクリックします。
11. <スコアカード・イメージの設定> で、次のオプションの中から 1 つを選択し、[次へ] をクリックします。

- スコアカードにイメージをリンクしない
スコアカードにイメージを表示しない場合はこのオプションを選択します。
 - スコアカードにイメージをリンクする
スコアカードに地図などのグラフィックを表示する場合はこのオプションを選択します。
URL を指定するフィールドに、使用するイメージの完全な URL を入力します。
12. イメージをリンクするよう選択した場合、次の処理を実行します。選択しない場合は、このステップをスキップして次のステップに進みます。
 - a. グラフィック上に配置する KPI を選択します。
 - b. グラフィック上のポイントをクリックして、KPI の表示場所を決めます。
 - c. [リセット]をクリックして、グラフィックから KPI を削除します。
 - d. KPI をグラフィックに配置した後、[次へ]をクリックします。
 13. 〈ユーザー〉で、スコアカードへのアクセスを許可するユーザーを選択し、[次へ]をクリックします。
 14. 〈ユーザー権限〉で、各ユーザーに与える権限タイプを指定して[完了]をクリックします。

▶ 「スコアカードのスコアカード」を作成するには

1. [KPI とスコアカードの管理]タブをクリックし、フォーム左側で[スコアカードの管理]メニュー・オプションを展開します。
2. [新規作成]をクリックします。
3. 〈スコアカードの選択〉で、[別のスコアカードのスコアカードを作成する]をクリックします。
4. 〈新しいスコアカードの作成〉で、次のフィールドに値を入力します。
 - 名前
 - カテゴリ
 その他のスコアカードのグループをスコアカードに含める場合、カテゴリを選択します。
含めない場合は[カテゴリなし]をクリックします。
5. [選択可能な項目]リストで、含めるスコアカードを検索して選択し、次に右矢印をクリックして、スコアカードを[選択可能な項目]リストから[選択済み項目]リストに移動します。
[フィルタ]フィールドでカテゴリを選択することにより、選択可能なスコアカードのリストには特定のカテゴリの関連項目のみ表示することができます。すべてのスコアカードを表示するには、*ALL を選択します。

スコアカードにネストするすべてのスコアカードに対して、このステップを実行します。
6. スコアカードを[選択項目]フィールドで選択した後、上矢印または下矢印をクリックして、表示するスコアカードの順序を変更します。
7. [次へ]をクリックします。
8. 〈パフォーマンス・インジケータ詳細〉の[加重値の設定]セクションで、各スコアカードの横に数値を入力して、他のスコアカードに対する相対加重値を指定します。値の合計は 100 になるようにしてください。すべてのスコアカードに均一の加重値を割り当てるには、このフィールドをブランクにします。

9. [計算方法の選択]セクションで、次の中からゲージ値の計算に使う方法を選択します。
- 集計
結果を示すゲージは、構成値の合計の平均を表示します。
 - 標準化
結果を示すゲージは、相対化された構成値の合計の平均を表示します。
10. 任意のステップですが、[比較値とする閾値セットの選択(複数可)]セクションで、[選択可能な項目]フィールドで閾値セットを選択した後、右矢印をクリックして[選択項目]フィールドへ閾値セットを移動し、比較値としてゲージに表示する閾値セット(複数可)を選択することもできます。
11. [次へ]をクリックします。
12. <スコアカード・イメージの設定>で、次のオプションの中から1つを選択します。
- スコアカードにイメージをリンクしない
スコアカードにイメージを表示しない場合はこのオプションを選択します。
 - スコアカードにイメージをリンクする
スコアカードに地図などのグラフィックを表示する場合はこのオプションを選択します。
URLを指定するフィールドに、使用するイメージの完全なURLを入力します。
13. イメージをリンクするよう選択した場合、次の処理を実行します。選択しない場合は、このステップをスキップして次のステップに進みます。
- a. グラフィック上に配置するスコアカードを選択します。
 - b. グラフィック上のポイントをクリックして、スコアカードの表示場所を決めます。
 - c. [リセット]をクリックして、グラフィックからスコアカードを削除します。
 - d. スコアカードをグラフィックに配置した後、[次へ]をクリックします。
14. [次へ]をクリックします。
15. <ユーザー>で、[選択可能な項目]フィールドからユーザーを選択し、右矢印をクリックして[選択項目]フィールドに移動し、「スコアカードのスコアカード」へのアクセスを許可するユーザー(複数可)を選択します。
16. [次へ]をクリックします。
17. <ユーザー権限>で、[表示可]または[表示可、編集可]のいずれかを選択して[完了]をクリックします。
- [表示可]の権限の場合、スコアカードを参照することはできますが、変更はできません。
[表示可、編集可]の権限の場合、スコアカードを参照して変更することができます。

▶ 既存のスコアカードをコピーするには

スコアカードをコピーすると、コピー元のスコアカードの KPI すべてが含まれる、新しいスコアカードが作成されます。ディレクタを使って、新しいスコアカードに KPI を追加、再配置、あるいは削除します。

1. [KPI とスコアカードの管理] タブをクリックし、フォーム左側で[スコアカードの管理]メニュー・オプションを展開します。
2. [コピー]をクリックします。
3. 〈スコアカードの選択〉で、コピーするスコアカードをクリックします。

コピーしたスコアカード名の後ろに「- コピー」と付いた新しいスコアカードが作成されます。
[編集]メニューを使ってこのスコアカードを編集することができます。

スコアカードの変更

さまざまな理由でスコアカードの変更が必要になる場合があります。たとえば、類似したスコアカードをコピーして、それを若干変更する場合などです。スコアカードを必要に応じて修正する必要もあります。たとえば、新しい従業員にスコアカードへのアクセス権限を与えたり、組織や市場の変化に合わせてスコアカードの値を変更する場合などです。

スコアカードを変更するユーザーは、[表示可、編集可]の権限を持っている必要があります。

BI フォームの左側に[スコアカードの管理]メニュー・オプションを展開した後、[編集]オプションの内容を表示します。スコアカードを変更するには、[編集]オプションのいずれかを使用します。スコアカードを変更する場合に表示されるインターフェイスは、作成する場合に表示されるインターフェイスと同じです。ディレクタが起動される前に、変更するスコアカードを選択するよう指示されます。

次の表は、変更可能なスコアカードのパラメータとそれぞれを変更するのに使用可能なオプションのリストです。

スコアカードのパラメータ	[編集]の下で選択するオプション
KPI の順序	<ul style="list-style-type: none">スコアカードの詳細
表示 KPI	<ul style="list-style-type: none">スコアカードの詳細
名前	<ul style="list-style-type: none">スコアカードの詳細
グラフィック	<ul style="list-style-type: none">スコアカードの詳細スコアカード・イメージ
権限	<ul style="list-style-type: none">スコアカードの詳細許可★
パフォーマンス・インジケータ詳細	<ul style="list-style-type: none">スコアカードの詳細加重値、計算タイプ、評価タイプの選択

スコアカードの削除

不要なスコアカードをシステムから削除することができます。スコアカードを削除しても、スコアカードの KPI は削除されません。

▶ スコアカードを削除するには

その他のスコアカードにネストされているスコアカードを削除することはできません。

1. [KPI とスコアカードの管理] タブをクリックし、フォーム左側で[スコアカードの管理] メニュー・オプションを展開します。
2. [削除] をクリックします。
3. 〈スコアカードの選択〉で、削除するスコアカードをクリックします。
4. 〈スコアカードの削除〉で、削除してよい場合は[完了] をクリックします。

警告

システムから削除したスコアカードは復元できません。

ビジネス・インテリジェンスと J.D. Edwards コラボラティブ・ポータル

J.D. Edwards コラボラティブ・ポータルを通じて、ビジネス・インテリジェンスのインターフェイスまたは個々の KPI をポートレットに表示して、ビジネス・インテリジェンス・アプリケーションにアクセスすることができます。このためには、J.D. Edwards Collaborative Portal を購入してインストールした後、J.D. Edwards アップデート・センターから BI 3.0 ポータル・スイートをダウンロードして、コラボラティブ・ポータルにビジネス・インテリジェンス・ポートレットをインストールする必要があります。インストール後、コラボラティブ・ポータルに複数のポートレットのインスタンスを作成すると、異なるビューとプロジェクトを表示することができます。

ビジネス・インテリジェンス・ポートレットでは、ビジネス・インテリジェンスの各プロジェクトに対してユーザーID とパスワードを保存でき、その結果、異なるプロジェクトを表示するにはそのたびにログインし直す必要があります。ビジネス・インテリジェンスのパスワードを変更する場合、ポートレット編集画面のインスタンスを少なくとも 1 つは更新する必要があります。パスワード・データは共有されるため、ビジネス・インテリジェンスの複数のインスタンスに対してパスワードを変更する必要はありません。

ビジネス・インテリジェンスの以前のバージョンとは異なり、アプリケーションの本バージョンは、Inherited Trust を使用していません。ログオンの信用情報は、標準 Basic Authentication によって、ビジネス・インテリジェンスのサーバーに送信されます。HTTPS/SSL を導入していない場合、このソリューションをイントラネット専用環境で導入することをお勧めします。

ビジネス・インテリジェンス・ポートレットからログオフすると、同時にビジネス・インテリジェンスからもログオフされます。コラボラティブ・ポータルをログオフすると、ビジネス・インテリジェンス・サーバーのセッションもログオフされます。

ビジネス・インテリジェンス・ポートレットの作成

ビジネス・インテリジェンス・ポートレットのインスタンスを作成し、次のような異なるタイプのビジネス・インテリジェンス・ビューの中からビューを 1 つ表示することができます。

- ビジネス・インテリジェンス・アプリケーションを起動するリンク

ビジネス・インテリジェンス・アプリケーションを起動することができます。インターフェイスは新しいウィンドウに表示されます。

- スコアカードと KPI の評価タイプ集計

スコアカードの集計状況を棒グラフで表示します。つまり、状況が注意(赤)、閾値内(黄)、順調(緑)に該当する KPI の数が表示されます。表示権限があるすべてのスコアカードと KPI が対象となります。

- マイ・スコアカードのリスト

スコアカードのツリー([KPI&スコアカードの表示]タブの左側に表示される内容)を表示します。[KPI&スコアカードの表示]タブに含めるように選択したスコアカードと KPI のみ表示されます。ポートレットのスコアカード・ツリーは、[KPI&スコアカードの表示]タブと同じように表示されます。

- スコアカードのグラフィック・イメージ

イメージがリンクされたスコアカードを表示します。グラフィック・イメージは、BI のインターフェイスと同様に、アクティブな KPI を持つコンポーネントに表示されます。

- キー・パフォーマンス・インジケータ (KPI) ゲージ

特定の KPI のゲージを表示します。ゲージには、BI のインターフェイスに備わっているのと同じ機能があります。

- ビジネス・インテリジェンス・レポートを起動するリンク

ビジネス・インテリジェンス・レポートを実行することができます。インスタンスは新しいウィンドウで起動されます。

参照

- 『ビジネス・インテリジェンス・ユーザー・ガイド』の「ゲージの処理」
- ポートレット、ページ、配置については、J.D. Edwards コラボラティブ・ポータル・インフォセンターのドキュメンテーション
- ポートレット編集画面の使い方については、ビジネス・インテリジェンス・ポートレットのヘルプ画面

▶ ビジネス・インテリジェンス・ポートレットの新しいインスタンスを設定するには

1. コラボラティブ・ポータルに BI 3.0 ポータル・スイート WAR ファイルがインストールされていない場合、インストールを行います。
2. コラボラティブ・ポータルで、ビジネス・インテリジェンス・ポートレットにアクセスし、ページに追加します。
3. ビジネス・インテリジェンス・ポートレットを配置したページを表示します。
ビジネス・インテリジェンス・ポートレットの処理について説明する概要が表示されます。
4. 画面のプロンプトに従って、設定プロセスを完了します。

